

# 柿生文化

柿生郷土史料館 情報・研究誌  
 住所:川崎市麻生区上麻生 6-40-1  
 柿生中学校内  
 電話:070-1503-6401,044-988-0004  
<http://web-asao.jp/hp2/k-kyoudo>  
 第100号

## 柿生文化第100号特別寄稿

「柿生文化」100号に寄せて 柿生中学校校長／柿生郷土史料館館長 財田信行

平成22年、柿生中学校新校舎が完成し、それとともに柿生郷土史料館が開館しましたが、それより前の平成20年7月18日に柿生郷土史料館の情報・研究誌として「柿生文化」が創刊されました。そして、8年間、月1回のペースで発行し続け、今回で100号を数えることになりました。この間、柿生郷土史料館設立に向けてご尽力いただいた、故小島一也様、元本校校長の板倉敏郎先生、柿生郷土史料館専門委員の小林基男様はじめ、多くの方々から寄稿をいただき発行を続けることができました。これまで、「柿生文化」の発行に当たりご尽力いただきました皆様方に心からお礼を申し上げます。環境や文化、政治経済等、今日社会は急速に変化しておりますが、それは柿生の地にあっても例外ではありません。そのような社会にあっても、悠久の歴史を見つめ、深い郷土愛と高い専門性によって綴られてきた「柿生文化」は、大変貴重な情報・研究誌です。今後も、地域の方々にも末永く親しんでもらいながら、地域文化そのものとしてますます充実し、柿生の文化がさらに広く伝わりますよう、心より願っております。

「柿生文化」100号を迎えて

柿生郷土史料館支援委員長

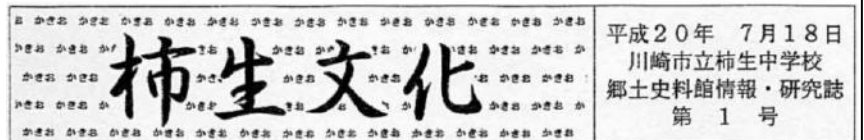
原 慶應

平成20年7月に柿生郷土史料館の情報・研究誌として「柿生文化」1号が発刊され8年が経過し、今月号で100号を迎えることとなりました。大変長い道のりであったと思います。当時は旧校舎の取り壊し、基礎工事、新校舎の建設の最中で、プレハブ校舎の中での発行をしており、大変窮屈な中での2年間でした。

新校舎の完成により、柿生郷土史料館(柿生の歴史を残していくため「資料館」ではなく「史料館」としました)もオープン、ここでの活動になりました。平成25年4月の第59号よりリニューアルし、又読み易いように少しずつ変更してきました。

柿生郷土史料館の設立にご尽力いただいた、故小島一也先生の「麻生の歴史を探る」の遺稿もまだ続きます。

柿生文化1号より昨年6月まで長きに渡り執筆、印刷、柿生郷土史料館の運営にご尽力いただきました板倉敏郎先生に感謝いたします。



### 創刊に寄せて「温故知新」の心を大切に ～文化の発信基地としての柿生中学校を～

柿生中学校長 板倉 敏郎

「温故知新」(古きをたずね、新しきを知る)という言葉があります。わたしたち現代人は、何百年、何千年という祖先の知恵と努力に支えられ、今日の豊かな生活を営んでおります。それは大変有り難いことであります。私たちは、常に祖先の残してくれた「思い」や作り出された“文化”をふりかえりながらこれからの未来を考え、新たな文化を創造していく必要があると思っております。

柿生・岡上地域は、歴史的にも古く、多くの縄文・弥生遺跡をはじめ、たくさんの古墳も発見され、中世、近世においても多くの歴史的文化遺産が残されています。

文化的にも、古くから鶴見川との関連が深く、川の流域各地には共通の文化的様相が沢山みられます。川崎市の多くが武蔵の国、橘樹(たちばな)郡であったにもかかわらずこの地域が、かつては、都筑郡であったことから現在の川崎市のなかでも特異な歴史と文化圏を持っていると考えられます。

そのような意味からも柿生が川崎市の中にありながら、また別の独特の文化を持っているという視点から考えるとその視点にあった地域独自の文化財の公開施設が望まれるところでもあります。

平成22年春に完成する柿生中学校では、これらの地域の思いとニーズをふまえながら新校舎のなかに造られる特別活動室を活用して郷土史料館(仮称)を開館する予定であります。

この史料館は、第1番目に、市民ミュージアムに協力をお願いしながら地域の文化的遺産を展示公開したいと考えています。

第2番目に、社会科などの学習活動にも生かすために教科書等に登場する歴史史料の実物を展示し、単元によっては実際に授業をこの史料室の中で展開します。ここでは実際に生徒が実物史料を手にとって観察したり研究する活動も行ないます。

第3番目に、展示史料をもとに外部から講師をお招きして公開講座を開催します。すでに平成18年度から本校で定期的に開催している「柿中カルチャーセミナー」です。更に充実した活動ができるものと思っております。

第4番目に、地域に関する出版物や研究資料などの図書資料を開架し、地域の方にも閲覧できるようにします。

第5番目に、柿生地域の文化の発信基地として、地域の皆様に文化的な情報をお伝えしていくとともに日常、地域の方々にも開放し、地域の文化的コミュニティーの場としても機能させてまいりたいと思っております。

校舎改築とともに以上のような活動を進めてまいりたいと思っております。なお、史料館の運営については、地域の皆様のボランティア活動におたよりしなければならぬこともたくさんございます。なにとぞご支援のほどよろしくお願い申し上げます。職員一同、地域の皆様とともに歩める新しい視点に立った学校づくりをめざして鋭意努力してまいりたいと思っております。今後とも、どうかご理解とご協力をたまわりますようよろしくお願いいたします。



郷土の文化遺産は祖先の記憶であり未来への架け橋  
 ～～「柿生文化」100 号発刊に思う～～

板倉敏郎

私が柿生中学校に赴任したのが平成 17 年の春でした。当時は未だ旧校舎で、坂を登り切ったところから桜の花のドームが続いて、その美しさに感動したことをよく覚えています。

この頃には、既に校舎改築の構想が教育委員会から出され、地域のメンバーも入り「校舎改築推進協議会」が組織されていました。そのような動きの中で、協議会の中では「吾が村の文化遺産を保存、公開できる施設を作ろうではないか」という声が多く出され、会では毎回熱のある討論が重ねられました。

そんな地元の方々の熱意を受け、外部講師の方をお招きし、郷土の歩みをより多くの方々に知っていただきたいという事から平成 18 年 5 月に第 1 回のカルチャーセミナーが開催されました。この時は、市民ミュージアムから浜田晋介氏をお迎えして「柿生周辺における古代遺跡を訪ねて」という題で講演をお願いいたしました。更にこの年には、市民ミュージアムの協力を得て「柿生周辺の奈良時代・平安時代」「柿生の民俗～年中行事と人々の暮らし～」「柿生の民俗～民俗の諸相～」等のテーマで講演が開催され、それぞれ大変多くの参加者で熱気あふれる会場となりました。平成 19 年



2 月には「ふるさと柿生・岡上を語る」と題して、小島一也氏・鈴木錠氏・長塚隆夫氏・久保倉良三氏の地元のメンバーによるパネルディスカッションが行われ、会場が一杯になったことを覚えています。

このように、地元の方々の中に少しずつ意識が高まってくると、郷土の歩みを紙面に残し、郷土理解の裾野を広げ、未来を背負う若い世代にも関心を持ってもらいたいという思いも生まれ、柿生郷土史料館の情報・研究誌「柿生文化」第 1 号が 20 年 7 月に誕生する事になりました。この時は、とても 100 号まで続くななんて事は夢にも思っていませんでした。

名称を「柿生文化」としたのは、柿生の風土に育てられながら何百年もの間、培われてきた思いや、考え方、伝承、そして数多くの遺品等、郷土の有形・無形の「文化」を知ることが新しい柿生の未来への創造につながると考えたからです。

内容的には、柿生郷土史に関するテーマを中心として、日本史・世界史に関するものや民俗・地名・文化財情報等々、幅広い分野にわたって掲載しました。特に故小島一也氏の「麻生のルーツを探る」シリーズは今回の 100 号で 70 回を数えています。逝去される直前まで執筆されていた力作で、この「柿生文化」のために書き温められていたものです。まだ、しばらくこのシリーズは続きます。楽しみにしてください。

柿生文化を編集していて一番大変であったことは、回を重ねるごとに郷土に関する材料がなかなか見つからないということでした。

しかし、支援委員の方々との話の中にヒントになることが沢山出てきました。一例を挙げれば「メカリ婆さん(4・6号)」「首なし地藏(62・64号)」「牛塚(57・58号)」「ドブツタと摘田(23号)」「岡上神社(77・78号)」などです。随分助かりました。地元の方々が日常当たり前のように生活している中に沢山の貴重な情報が隠されていることがよく分かりました。

柿生には眠った有形・無形の文化財が山ほどあります。しかしそれを記憶している人は年々減少してきています。貴重な遺産を何とか掘り起こし、未来へ、祖先の記憶として残して欲しいと思っています。「柿生文化」そして「柿生郷土史料館」が過去から未来への架け橋となることを強く願ってやみません。

シリーズ  
「麻生の歴史を探る」 第70話

# 北条氏関東支配 (3)～小沢ヶ原

小島 一也 (遺稿)

こうして設営された小机城を主城とする支城は鶴見川の中下流にあり、その上限は荏田城で、麻生、南多摩の地にはその名を見せません。そのことは、北条氏のこの地方の領土経営は鶴見川下流小机、佐江戸、茅ヶ崎辺りを中心に始まったということで、前稿小沢城を巡る戦乱は過去のものとなり、麻生には亀井城、南多摩には沢山城(後述)がありますが、地理的に八王子城傘下となり、行政の上では小机庄となっていくます。

北条氏(氏綱)がほぼこの地方(相模・武蔵)を勢力下としたのは大永四年(1524)と言われます。その後、その子氏康が若冠16歳の初陣で享禄三年(1530)上杉勢を小沢ヶ原で徹底的に破りますが、関東支配の途は厳しく北条氏が小田原城を本城として、「小田原役帳」に見る支配体制が確固たるものになるのは、氏康(三代)から氏政(四代)へ代替わりの永禄二年(1559)で、それは前稿(96号第66話)伊勢宗瑞(早雲)が枳形城へ進出してから約50年の年月を費やしています。

この間、北条氏が領国を支配してきた特徴は、「虎の印判状」に代表される夥しい文書と、「代替え毎の検地」そして、「小田原衆所領役帳」に依る家臣団の掌握と謂われ、それを差配するのが北条家を権威づけた文書です。北条家文書には花押が印された「判」物と呼ぶものと、北条家を代表する「禄寿庇穩」(ろくじゅおうおん=意味:人民よ皆平和に暮らそう)と印された朱の方形印の上に、虎がうずくまる「虎の印判状」があります。この印判状は小田原城の当主から、寺社、百姓にまで通達される直接支配が特色だったようです。

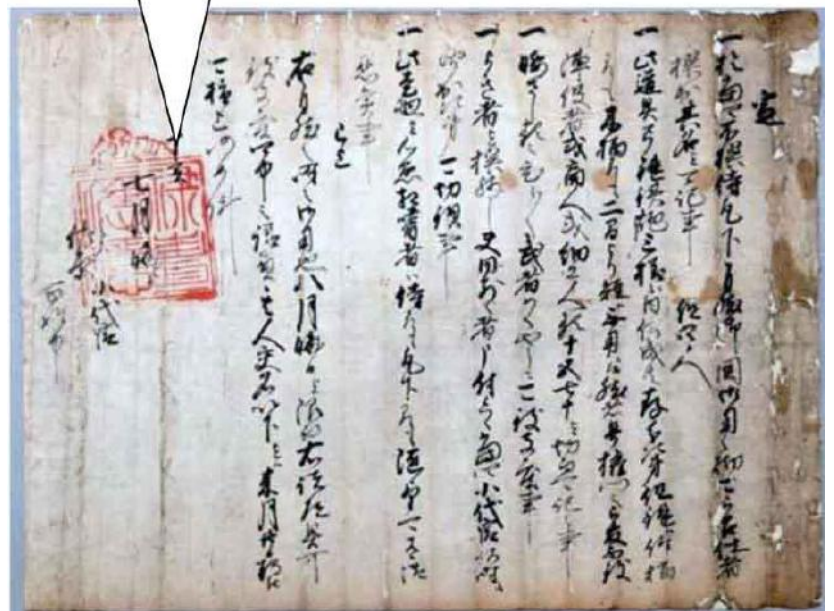
これらの印判状は早雲、氏綱の時代から始まりますが、麻生に関わるものを見てみますと、まず天文十五年(1546)北条氏康が小沢郷を併和左衛門太夫(はがさえもんのたいふ)なる者に与えた判物があり、「武州小沢之貳百壱拾八貫文之地、進置候、恐々謹言、天文十五年七月九日 併和左衛門太夫殿 氏康(花押)」と記されています。これはこの年4月、前稿(小沢城)の扇谷上杉家を河越城に滅ぼした併和氏の勲功に報ゆるものだったと思われます。稲城市資料によると、この併和左衛門太夫幼名又太郎は小沢城主を務めていたと記され、後に伊予守と号しました。武田・北条・今川家三つ巴の抗争の中で、永禄十二年(1569)、北条氏は駿河の今川氏と和した際、この伊予守に対し「興国寺城主に定置候 略～ 仍状如件。永禄十二年八月、併和氏伊予守殿、氏政(花押)」の判物を出しています。興国寺城とは早雲が得た最初の城で、小沢郷を領した併和氏は相当の人物だったことが分かります。

ついで元龜三年(1572)北条氏政は岡部和泉入道なる者に麻生郷を与える判物を出しており、そこには「為当意堪認分、小机筋麻生郷進之候、仍状如件、元龜三年三月十六日、岡部和泉入道殿 氏政(花押)」と記されています。堪認分とは客分扱いのことです。この岡部和泉入道は元今川家の家臣でした。元龜三年という武田信玄が北条氏と和睦し上洛の年で、永禄十二年(1569)今川氏は滅亡しており、その家臣を客分として扱った戦国大名の複雑さを感じさせられます。ただそこには貫高(知行高)の記載がなく、この時期発令された「小田原役帳」には「麻生の貫高八十二貫五百文、領主布施蔵人佐」とありますので、その年貢の一部が小田原で支給されていたのでしょうか。なお、麻生には岡部入道に関する伝承はなく、岡部を苗字とする在家が一戸あり、布施氏についての由縁は全くないようです。



虎の印判 (左図)  
と印判状 (下図)

(注) 文書の内容は  
本稿とは関係あり  
ません。



参考文献:「川崎市史」「稲城市史」「戦国大名北条氏とその文書」  
(印判状は横須賀市のホームページより編集者転載)



# 平成 28 年度法人会員ご紹介 平成 28 年 7 月 31 日現在 (順不同、敬称略)

本年度の柿生郷土史料館「友の会」法人会員の皆様をご紹介します。

当館の活動を支えていただき、深く感謝いたします。

柿生郷土史料館は地域の皆様のご支援とご協力とで運営しております。

- ◆王禅寺◆浄慶寺◆常安寺◆眞宗寺川崎霊園◆琴平神社◆月読神社
- ◆麻生総合病院◆たま日吉台病院◆柿生アルナ園◆虹の里◆(株)飛鳥典禮
- ◆川崎青葉幼稚園◆柿生保育園◆柿の実幼稚園◆(学)和光学園◆(学)桐光学園
- ◆FISH・ON！王禅寺◆(株)ティエムコーポレーション◆朝日ホーム◆(株)アクティブ
- ◆エムケープリント◆JA セレサ川崎柿生支店◆(株)ささらプロダクション◆菊川園
- ◆(株)スズユウ商事◆(株)ホシノ商会◆東急スポーツオアシス◆奈良工業◆(株)観財
- ◆杉本電気管理事務所◆広東商事◆(株)たかみ◆サイトー農芸◆(有)白百合商事
- ◆フラワーショップまきは◆長瀬敏之土地家屋調査士事務所◆プライマリー(株)
- ◆ヘアサロン ミウラ◆川崎信用金庫 柿生支店◆リック設計企画(有)◆(有)栄和
- ◆(有)志田電子製作所◆美容室 Lucir (ルシル)◆(有)荒川電気工事◆誠和産業(株)
- ◆(有)マスターズ◆禅寺丸本舗◆(株)あかもと本舗◆(有)柿生恒産◆(株)北島工務店
- ◆栄運輸(株)◆(有)青戸建材店◆(有)孝友商事◆(有)麻生自動車◆(有)池尻商事
- ◆(有)ステップ・オン◆(株)富士建材
- ◆(株)とん鈴◆レストラン喫茶ベル◆(有)まつや◆小料理わかば

## 柿生郷土史料館催物案内 【入場無料】

◎開館日：奇数月は毎日曜日、偶数月は毎土曜日 (原則として月4回)

**9月** 4・11・18・25 日(毎日曜日) **10月** 1・8・22・29 日(毎土曜日)

◎開館時間:午前10時～午後3時 (10月15日は休館です)

柿生郷土史料館友の会  
第5回史跡見学バスの旅

### 久能山東照宮周辺の史跡巡り

日時 2016年11月1日(火)

東名の工事規制  
により、日程を  
変更しました！！

主な見学先 久能山東照宮と博物館、由比の街並み、登呂遺跡

集合 : 7時45分 新百合丘駅北口 (21ビル前の歩道)  
解散 : 午後7時00分頃 (新百合丘駅北口 → 柿生駅付近)  
費用 : 9500円

申し込み : 往復はがきに必要事項を記入の上、柿生郷土史料館まで 先着順 44名  
必要事項 : 参加者全員の郵便番号、住所、氏名、年齢、連絡先電話番号  
送付先 : 215-0021 川崎市麻生区上麻生 6-40-1 柿生中学校内 柿生郷土史料館

申込締切 10月5日(水)

問合せ先 : 小林基男 (080-5513-5154 または 044-989-0622)

ついに完成！  
ふるさと柿生の記憶をDVD化  
第1弾

## 「身近にあった信仰の世界と人々の思い」

◆◆◆晩秋の上麻生「秋葉講」を訪ねて◆◆◆

ご希望の方にはおわけしております。詳しくは史料館までお問い合わせください。